St. Luke's International University Repository

聖路加看護大学年報: 2008年度（平成20年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-01-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/4728

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

Ⅳ 生涯教育

【学　　部】

1．科目等履修生

科目等履修生の履修者数が年々減少しており、制度の見直しを行い、2008年度より夜間開講を廃止することが教授会で決定され、今年度より通常の学部の授業に受け入れることになった。

2008年度科目等履修生の応募者数は７名（夜間からの継続者は５名）であり、全員が合格となった。要項の詳細が２月に決定し、募集が遅くなったことも志願者減の原因と考えられる。志願者が大幅に減少したことに対し受講生を増やすため、研究センターで実施している認定看護師課程の科目を科目等履修生が履修することの検討を行ったが、制度上できないことがわかり、断念した。また、個別に論文指導を行う「看護研究Ⅱ」を開講して、教養科目の先生方に担当していただくことになった。

年齢層は28～49歳までと幅があるが、20歳代が14％、30歳、40歳代がそれぞれ43％で、30～40歳代が大半を占めていることは夜間開講の際と変わっていない。

開講科目および履修状況は**表１**のとおりである。

表１　科目等履修生開講科目および履修者数

	授業科目	単位数	履修者数	単位修得者数	単位未履修者
前期	心理学	2	1	1	
	生涯発達論Ⅰ	2			
	生涯発達論Ⅱ	2			
	家族関係論	2	3	3	
	集団力動論	1			
	看護提供システムⅠ	2	2	2	
	看護技術論	1	2	2	
	生涯発達看護論Ⅰ	2	1	1	
	慢性期看護論Ⅱ	3	1	0	1
	リハビリテーション看護論Ⅰ	2			
	看護研究Ⅰ	2	2	2	
	看護ゼミナール （生活行動が障害された患者とその家族への看護）	1			
	看護ゼミナール（遺伝看護）	1	2	1	1
	看護ゼミナール（性教育）	1	1	1	
	看護ゼミナール（老年看護）	1			
後期	ヒューマンセクシュアリティⅠ・Ⅱ	2	3	3	
	地域看護論Ⅰ	2	1	1	
			計	17 （89.5％）	2 （10.5％）

【大 学 院】

1．科目等履修生

大学院の科目等履修生制度は、CNSの資格取得に際し、必要科目の単位数が不足している者に対する措置として、1999年度より前期、後期にそれぞれ募集を行っている。

2007年度の応募者は２名であった。履修科目と履修者数は**表２**のとおりである。

表２　大学院科目等履修者履修状況

授　業　科　目	単 位 数	履修者数	単位修得者数
がん看護学・緩和ケア実習	6	1	1
病態生理学	2	1	1

2．研究生

論文博士規程発足と同時に、1995年度から研究生の受け入れを開始した。

今年度の研究生は、新規志願者は１名、更新志願者は４名、計５名であった。また、外国人特別研究生として２名、１月～３月の３ヵ月間受け入れを行った。年齢は40～59歳で、全員が修士課程修了者である。研究生の受け入れ状況は**表３**のとおりである。

表３　研究生の受け入れ状況

指導教授	研究生数
井部　俊子	１＊
及川　郁子	1
堀内　成子	１＋１＊
田代　順子	2
小松　浩子	1

＊外国人特別研究生

【研究センター】

1．認定看護管理者ファーストレベル講習

研究センターでは、認定看護管理者ファーストレベル講習（以下、ファーストレベル講習）を継続教育部門の事業と位置づけ、2004年の東京都看護協会による教育機関認定を経て、2005年からは日本看護協会から教育機関認定を受け、毎年８～９月にかけて開講してきた。2008年度は80名の５期生を輩出し、これまでの本講習修了者は403名となった。

102名が応募し、書類および小論文による選考の結果７月の認定看護管理者講習運営委員会で81名が選考され80名が受講した。更に80名全員が全教科目のレポート審査に合格し修了した。

講習運営においていくつかの変更を行った。

① 認定看護師（不妊症看護・がん化学療法看護・訪問看護）教育課程の開講にともない、講義・演習の一部を、アリス・C・セントジョンメモリアルホールを使用し合同で行った。多様な看護実践経験を有する受講生が活発な意見交換を通して切磋琢磨しながら学び合う場となった。

② 2007年12月の学校教育法改正を受け今年度の本講習修了者から修了証とともに履修証明書を交付することになった。今年度受講修了生80名に交付した。

③ 聖路加国際病院の好意により遠方からの受講生３名がゲストルームを利用した。

④ 経理上の変更点として本学教員には講師料が支払われないことになった。

⑤ 認定看護管理者セカンドレベル講習の３年に一度の開講が決定され、本講習はセカンドレベル講習開講年度には休講することとなった。したがって2009年度はセカンドレベル講習を開講し本講習は休講する。

1）ファーストレベル講習の概要

⑴ 教育理念

聖路加看護大学の教育理念に基づき、保健・医療・福祉分野における看護管理者として必要な基礎知識を習得し、組織やコミュニティでリーダーとして活躍できる能力を開発する。受講生との対話を中心とした、臨床現場に密着した授業を行うとともに、受講生のキャリア相談も行う。

⑵ 教育目的

(a) 看護専門職として必要な管理に関する基礎的な知識・技術を習得する。

(b) 看護を提供するための組織化ならびにその運営に必要な知識・技術を習得する。

(c) 組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析する能力を習得する。

⑶ 開講時期

2008年８月25日(月)～9月26日(金)

⑷ 開講科目（単位数と時間数）と講師

以下の６教科目、総単位数10単位/150時間。講師数は、学内７名、学外13名で合計20名であった。

① 看護管理概説（１単位/15時間） 講師:井部俊子、吉田千文

② 看護専門職論（２単位/30時間） 講師:井部俊子、山田雅子、中村綾子、吉田千文
学外講師：手島恵（千葉大学大学院)、柳橋礼子（聖路加国際病院）

③ ヘルスケア提供システム論(１単位/15時間) 講師：山田雅子
学外講師：石田昌宏（日本看護連盟）

④ 看護サービス提供論（３単位/45時間） 講師：井部俊子、山田雅子、奥裕美
学外講師：佐藤エキ子*、柳橋礼子*、高橋美賀子*、加藤恵子*、寺井美峰子*、高井今日子*、坂本史衣*、鶴田恵子（日本赤十字看護大学）＊印は聖路加国際病院

⑤ グループマネジメント(２単位/30時間) 講師：井部俊子、中村綾子、吉田千文
学外講師：高井今日子（聖路加国際病院)、別府千恵(北里大学病院)、鷹野和美（京都創成大学）

⑥ 看護情報論(１単位/15時間) 講師：中山和弘、松本直子

学外講師：美代賢吾（東京大学医学部附属病院）

⑸　学習支援

これまでと同様、大学院生のティーチングアシスタントが授業支援を行うとともに受講生に対して質問対応や学習環境整備を行った。また自己学習の時間を設け教員が待機して受講生の主体的な学習を支援するとともに、受講生一人当たり30分のレポート作成相談の時間を設けた。

レポート作成相談には、研究センター専任研究員である小口江美子、森明子、矢ヶ崎香、實崎美奈、細川恵子、および学外者石崎民子氏（前本学COE研究員）、高畠有理子氏（前本学教員）、太田加世氏（前本学教員）が担当した。

⑹　受講生によるプログラム評価

講習終了前日に、井部俊子教育課程責任者による全受講生との対話形式での評価を行うとともに、質問紙によるプログラム評価を行った。

その結果、全６教科目において、①科目内容、②講義を担当した講師、③講義資料（量・内容、④講義課題（レポート課題）のすべてで、「適切だった」「どちらかといえば適切だった」が９割を超えた。また、演習、講義室の環境、図書館、学内環境、開講の時期、１ヵ月間の集中講義、受講料についてもほとんどの受講生が満足を示し、ほとんどの受講生がこのコースを誰かに紹介したいと回答した。効果的な自己学習の方法について今後適切な情報提供や支援方法について課題が残された。

２．認定看護管理者セカンドレベル講習の開講準備

１）セカンドレベル講習開講の決定までの経緯

本学の認定看護管理者ファーストレベル講習は平成2007年度までに323名の修了生を輩出し、教育内容については修了生および看護管理者の双方から高い評価を受けており、本学の認定看護管理者セカンドレベル講習（以下、セカンドレベル講習）開講に対する社会的期待が大きくさらに修了生のニーズも高まっていた。

2008年４月の本研究センター運営委員会において、セカンドレベル開講の是非について検討することが決定され、セカンドレベル講習検討会議（座長・井部俊子、松谷美和子、奥裕美、中村綾子、吉田千文、研究支援室職員・平良智子、河合智子）が発足した。

関東甲信越地域のセカンドレベル講習認定教育機関へのヒアリング、有識者からの意見聴取を経て、セカンドレベル講習検討会議で検討後、2009年夏に開講する計画が５月の研究センター運営委員会に提出され審議された。

研究センター運営委員会では、開講に対する社会的期待に応えることは本学の使命であり、第一線の看護管理者およびその候補者を対象としたセカンドレベル教育を通してわが国の看護管理レベルを向上させ看護の発展に寄与することができること、また一定の受講料を得ることができれば、安定した経営が可能であることが確認され承認された。同月、教授会審議を経て７月の理事会で正式に開講が承認された。

２）日本看護協会教育機関認定申請に向けた準備

６月より認定看護管理者セカンドレベル講習開設準備委員会（委員長・井部俊子、松谷美和子、奥裕美、中村綾子、吉田千文、支援室職員・平良智子、河合智子）が設置され、日本看護協会の

教育機関認定申請に向けた検討が開始された。８月末の日本看護協会への書類提出までに９回の委員会を開催、開講機関、教育責任者、教育機関の理念、教育目的、カリキュラム、講師の選定、予算計画などが検討された。研究センター運営委員会の議を経て10月に最終書類が提出された。12月、本学研究センターは、日本看護協会からセカンドレベル講習教育機関の認定を受けた。

３）本学のセカンドレベル講習の特徴

本学のセカンドレベル講習の特徴は、専門領域に精通した一流の講師陣と計11回からなる少人数グループによる Problem-Based Learning（以下、PBL）である。これらを通して看護管理者として求められる看護マネジメントの専門能力、対人能力、概念化能力の開発を目指す。

４）規程の改正と新しい運営委員会組織

セカンドレベル講習開講のため、「認定看護管理者講習（ファーストレベル）運営委員会規程」を改定し、「認定看護管理者講習（ファーストレベル・セカンドレベル）運営委員会規程」となった。この新しい規程のもとで、11月に第一回認定看護管理者講習（ファーストレベル・セカンドレベル）運営委員会が開催された。新委員会メンバーには、学内から看護管理学担当教員として奥裕美、中村綾子が、また学外から外部委員として東京慈恵会医科大学附属病院本院看護部長大水美名子氏、埼玉社会保険病院看護局長関矢カズ子氏、神奈川県立がんセンター看護局長上田規子氏が加わり、11名となった。

2009年２月研究センター運営委員会でセカンドレベル講習実施細則について承認され、これをもとに募集要項が作成され、４月から関東甲信越地域の100床以上の病院および本学ファーストレベル講習修了者に配布予定である。

５）セカンドレベル講習の概要

⑴　設置主体及び設置主体者名：学校法人聖路加看護学園理事長　日野原重明

⑵　教育機関名：聖路加看護大学看護実践開発研究センター

⑶　教育期間：２ヵ月間、月曜日から金曜日、３年に１回開催

開講期間：2009年８月3日～９月25日

⑷　教育理念：

本教育機関は、看護を学ぶ人々が各人に賦与された資質を発展させ、豊かな知性と感性をともに追求して看護専門職者として成長すること、そして看護を通して公共の福祉を推進し社会に寄与することをめざす聖路加看護大学の教育理念に基づき開講するものである。

本教育機関は、学習者が保健・医療・福祉分野の看護管理者として質の高い看護を組織的に提供するために必要な基礎的能力を開発することを教育の目的とする。基礎的能力とは看護マネジメントの専門的能力、対人能力、概念化能力をいう。看護管理実践における現場の問題を取り上げ、それを発展させることを通して、学習者が看護管理者としての基盤を自ら築くことを大切にし、それが実現できるよう支援する。

⑸　教育目的：

①　第一線監督者または中間管理者に求められる基本的責務を遂行するために必要な知・技術・態度を習得する。

②　施設の理念ならびに看護部門の理念との整合性を図りながら、担当部署の目標を設定し、その達成を目指したマネジメント能力を習得し発展させる。

③　看護管理実践上の課題を多角的視点で捉え、看護管理者の基盤となる主体的な態度を養い、論理的・倫理的思考力、対人関係能力、記述能力及び発表能力の向上を目指す。

⑹　教育課程：

ａ．教育目標

①　看護管理者として情報テクノロジーを有効に活用し根拠に基づく看護実践を推進するための理論と方法について理解を深め、自組織への適用可能性を探求できる。

②　看護サービスの質向上に向けた組織マネジメントと連携･協働の理論と方法について理解を深め、自組織への適用可能性を探求できる。

③　個人を活かし､組織理念･目標を達成するための人的資源管理の理論と方法について理解を深め、自組織への適用可能性を探求できる。

④　看護組織と看護実践について医療制度および医療経済の視点から捉えるための理論と方法を理解し、自組織における適用可能性を探求できる。

ｂ．教科目

①　情報テクノロジー　30時間(講義21、演習9)

②　看護組織論　60時間(講義36、演習24)

③　人的資源活用論　60時間（講義42、演習18）

④　医療経済論　30時間（講義18、演習12）

⑺　受講定員：50名

⑻　受講要件：日本看護協会「認定看護管理者制度セカンドレベル教育機関認定および企画・運営の手引き」に記載された必須条件を満たし大学受験資格のある者

⑼　受講者選考の方法：書類審査及び小論文

⑽　修了要件：

ａ．認定看護管理者セカンドレベルに必要な教科目の所定の単位（時間数）を修得する。

ｂ．修了審査によって所定の基準以上の成績を取得する。→各科目の評価点が60点以上（C 以上)。

⑾　教育課程責任者：井部俊子

専任教育担当者：吉田千文

⑿　講師（役職略）：

学内講師10名／井部俊子、松谷美和子、山田雅子、吉田千文、江藤宏美、片岡弥恵子、奥裕美、中村綾子、松本直子、佐藤晋巨

学外講師23名／太田勝正（名古屋大学)、嶋田元（聖路加国際病院)、高林克日己（千葉大学)、美代賢吾（東京大学)、柳橋礼子（聖路加国際病院)、高井今日子（聖路加国際病院)、渡邊明良（聖路加国際病院)、古閑慎一郎（㈱ビジネスコンサルタント)、奥村元子（日本看護協会)、出口将人（名古屋市立大学)、手島恵（千葉大学)、大串正樹（西武文理大学)、高木晴夫（慶應義塾大学)、松谷有希雄（国立療養所多摩全生園)、勝原裕美子（聖隷浜松病院)、正木義博（済生横浜東部病院)、高島尚子（日本看護協会)、大道千秋（日本看護協会)、福田紀子（慶應義塾大学)、安井はるみ（神奈川県看護協会)、松岡水貴（㈱ビジネスコンサルタント)、角田由佳（韓国漢陽大学)、立花直明（聖路加

国際病院）

⒀　使用する施設・設備：本館教室、メディアルーム、図書館、アリス講堂

⒁　受講料：254,000円（内訳：授業料182,000円、出願料10,000円、レポート審査料13,000円/科目×4、修了証・履修証明書交付料10,000円）

３．認定看護師教育課程

2007年度より準備をしてきた認定看護師教育課程（不妊症看護コース、がん化学療法看護コース、訪問看護コース）について、定員どおりの75名（順に15名、30名、30名）の研修生を迎え、６月７日（土）にアリス・C・セントジョンメモリアルホールにおいて入学式を開催した。日本看護協会認定部洪愛子部長に挨拶を頂戴した。

入学検定料は５万円、入学金は10万円、授業料は80万円とした。

２月28日の最終日には、全員が最終試験に合格し（８割以上を合格とする）、それぞれに対し修了証と履修証明書が授与された。修了式には、日本赤十字看護大学の鶴田恵子教授に祝辞を頂戴した。また、2009年５月に行われた日本看護協会での認定審査には、73名が合格した（順に15名、29名、29名）。

研修者の概要を**表４**に示した。

表４　３コース別研修生の概要

		不妊症看護(15人)	がん化学療法看護(30人)	訪問看護(30人)
年齢（歳）	最小-最大	31-53	27-43	32-56
	平均	40.1	33.5	42.8
地域（人）	北海道			
	東北		2	
	関東	11	21	26
	中部	3	4	2
	近畿	1		1
	中国		2	
	四国		1	
	九州			1
職位（人）	チーフ	1		
	副主任		1	2
	主任	2	5	3
	副師長		3	
	師長	3		
	所長			16
	その他	9	20	9

教育期間は、2008年６月１日～2009年２月28日であり、その間８月25日から９月30日までは、共通科目の講義として、３コースおよび認定看護管理者講習ファーストレベル受講生が合同で学習した。以下に学事歴および共通科目の教育内容等について**表５～７**にまとめた。

表５　2008年度学事暦

課　程　開　始	2008年６月１日（日）
入学式	６月７日（土）
オリエンテーション	６月７日（土）
授業開始	６月13日（金）
夏季休暇	８月13日（水）～　８月18日（月）
共通科目集中講義期間	８月25日（月）～　９月26日（金） ※土曜日も含む
不妊症看護コース実習	1月13日（火）～２月７日（土）
訪問看護コース実習	11月25日（火）～12月26日（金）
がん化学療法看護コース （実習Ⅰ）（実習Ⅱ）	11月中旬　～　１月中旬 （上記期間のうち、実習Ⅰ：１週間、実習Ⅱ：３週間）
クリスマス（休講）	12月25日（木）
年末年始	12月29日（月）～１月３日（土）
不妊症看護コース実習	2009年１月13日（火）～２月７日（土）
大学創立記念日（休講）	１月25日（日）
修了試験	２月末　予定
修了式	２月28日（土）
課程終了	２月28日（土）

表６　共通科目の内容および担当教員

	科　　目	時間（単位）	内　　容	担当教員
1	リーダーシップ	15〔1〕	組織とリーダーシップ 組織のカタチ 組織のダイナミズム チーム医療とリーダーシップ	井部　俊子 鷹野　和美
2	文献検索・文献講読	15〔1〕	概論とEBMのステップ 文献検討 文献の吟味 臨床の疑問から文献へ	江藤　宏美 片岡弥恵子 松本　直子 佐藤　晋臣
3	情報処理	15〔1〕	看護管理と情報活用 看護情報のシステム化 看護情報管理	中山　和弘 美代　賢吾
4	看護倫理	15〔1〕	看護業務基準と看護倫理 患者の権利とインフォームドコンセント 倫理理論と生命倫理の基本原則 患者と医療者の関係	鶴若　麻理 手島　　恵 高橋美賀子
5	教育・指導	15〔1〕	自律と協働・キャリア開発	井部　俊子

			看護理論（ベナー看護論） ジェネラリストとスペシャリスト 継続教育 教育プログラムの展開	柳橋　礼子 大久保菜穂子
6	コンサルテーション	15〔1〕	ストレスマネジメント ケア・コンサルテーション 病棟という集団	梅田　　恵 別所　千恵 平井　元子

表７　共通科目講師一覧

氏　名	所　属　・　役　職
坂本　史衣	聖路加国際病院　医療安全管理室
佐藤　晋巨	聖路加看護大学　図書館司書
鷹野　和美	京都創成大学　学長
高橋美賀子	聖路加国際病院　がん看護専門看護師
鶴田　恵子	日本赤十字看護大学　教授
鶴若　麻里	聖路加看護大学　助教
手島　　恵	千葉大学大学院看護学研究科　教授
中山　和弘	聖路加看護大学　教授
別府　千恵	北里大学　看護学部　講師
松本　直子	聖路加看護大学　図書館司書
美代　賢吾	東京大学医学部付属病院　企画情報運営部　副部長
柳橋　礼子	聖路加国際病院　副看護部長

１）不妊症看護コース

本コースは、日々進歩する生殖補助技術の適用と運用をめぐる医学的・社会的な課題と議論のなか、生殖医療チームにおいて、高い実践・相談・指導力をもって、不妊の問題を抱える対象者に全人的ケアを提供することができる認定看護師の養成を目的としている。この目的を達成するための教育課程として以下の内容（**表８～21**）を提供した。2008年度は入学者、修了者ともに15名であった。

表８　不妊症看護教育内容

共通科目	90	専門基礎科目	90	専門科目	165	演習	30	実習	225
1. リーダーシップ	15	1. リプロダクティブヘルス	15	1. 不妊症看護概論	15	演習	30	実習	225
2. 文献検索･文献講読	15	2. 生殖の基礎知識	15	2. 不妊症看護の基礎理論	30				
3. 情報処理	15	3. 不妊症の診断と治療	45	3. 不妊症看護援助論Ⅰ	45				
4. 看護倫理	15	4. 不妊症と社会	15	4. 不妊症看護援助論Ⅱ	15				
5. 教育・指導	15			5. 不妊症看護カウンセリング技法	45				
6. コンサルテーション	15			6. 不妊症看護マネジメント	15				
看護管理（選択共通科目）	24								
総時間数　600時間									

表９　不妊症看護コース専門基礎科目・専門科目の内容および担当教員

	科　目	時間（単位）	内　容	担当教員
専門基礎1	リプロダクティブヘルス	15（1）	リプロダクティブ&セクシュアルヘルス/ライツの概念	森　明子
			ヘルスプロモーションと不妊症	〃
			生殖医療と法	金　亮完
			生殖医療と倫理	宮坂　道夫
専門基礎2	生殖の基礎知識	15（1）	生殖生理と妊娠の成立	塩田　恭子
			女性器の発生・分化・構造とその異常	石原　理
			性反応・性機能障害	阿部　輝夫
			生殖遺伝	佐藤　孝道
専門基礎3	不妊症の診断と治療	45（3）	不育症の診断と治療	藤井　知行
			男性内分泌と男性不妊の診断・治療	遠藤　文康
			女性不妊の不妊因子と診断法	佐藤　孝道
			女性不妊症の治療：薬物療法	浜谷　敏生
			体外受精の実際	齊藤　英和
			生殖機能温存	塩田　恭子
			腹腔鏡下手術･卵管形成術の適応と実際	古谷　正敬
			ARTラボ技術と胚培養士の役割	小松　雅博
			不妊治療とEBM・最近の不妊治療の進歩	荒木　重雄
			人工授精・非配偶者間人工授精	久慈　直昭
			遺伝相談	平原　史樹
専門基礎4	不妊症と社会	15（1）	自助グループ活動の海外の動向・提供配偶子・胚による治療の課題	仙波由加里
			不妊症の心理	赤城　惠子
			里子・養子縁組	森　和子

専門1	不妊症看護概論	15（1）	不妊症看護の現状と課題 不妊症看護の展望 不妊症看護認定看護師としての個々の課題	森　明子 實﨑　美奈
専門2	不妊症看護の 基礎理論	30（2）	ドメスティック・バイオレンス カウンセリングの基礎･不妊カウンセリング セックスカウンセリング 家族関係論 セルフケア・エンパワーメント 意思決定 危機・喪失	片岡弥惠子 平山　史朗 金子　和子 瀬戸屋　希 堀内　成子 有森　直子 森　明子
専門3	不妊症看護援助論Ⅰ	45（3）	初診時と検査期間中の看護 ステップアップ・人工授精時の看護 体外受精時の看護 治療終結期の看護 顕微授精・性支援 ストレス対処看護介入モデル 排卵誘発法と看護	實﨑　美奈 森　明子 浜崎　京子 森　恵美 浅野　明恵
専門4	不妊症看護援助論Ⅱ	15（1）	不妊治療後の母子の看護 提供配偶子を用いた治療を受ける患者の看護 遺伝看護 流産時の看護	丸山　由美 清水　清美 有森　直子 上澤　悦子
専門5	不妊症看護 カウンセリング技法	45（3）	カウンセリングの実際 心理的アセスメント コミュニケーションスキル アサーション ピアグループシェアリング 呼吸法・弛緩法・イメージ法・自律訓練法 交流分析・カップルカウンセリング	八巻　甲一 福田　紀子 保坂　隆 森田　汐生 石井　慶子 赤城　惠子 光延　京子
専門6	不妊症看護 マネジメント	15（1）	生殖医療機関における看護管理と患者ケアの基本 生殖医療チームを育てるマネジメント （セルフマネジメントを含む） 生殖医療チームにおけるリスクマネジメント （トリアージを含む） 医療機関における不妊相談室の開設と運営	小池　弘子 福井トシ子 福田貴美子 藤島由美子
	演習	30（1）	聖路加看護大学看護実践開発研究センター事業「ルカ子ウイメンズヘルスカフェ」の企画・運営（グループワーク） １．知ろう！不妊について ２．パートナーと支えあう不妊	森　明子 實﨑　美奈 大久保菜穂子
	臨地実習	225（5）		

表10　不妊症看護コース講師　　**◎コース責任者　　○専任教員**

氏　名	所　属　・　役　職
◎森　　明子	聖路加看護大学看護実践開発研究センター教授
○實﨑　美奈	聖路加看護大学看護実践開発研究センター助教
赤城　惠子	あかぎけいこカウンセリングルーム臨床心理士
浅野　明恵	医療法人社団神谷レディースクリニック看護師長　不妊症看護認定看護師
阿部　輝夫	あべメンタルクリニック院長
荒木　重雄	国際医療技術研究所所長
有森　直子	聖路加看護大学准教授
石井　慶子	NPO 法人 Fine 臨床心理士
石原　　理	埼玉医科大学病院生殖医療担当診療科長
遠藤　文康	聖路加国際病院泌尿器科医幹
大久保菜穂子	日本伝統医療科学大学院大学准教授
片岡弥恵子	聖路加看護大学准教授
金子　和子	日本赤十字社医療センター臨床心理士
上澤　悦子	北里大学准教授
金　　亮完	山梨学院大学講師
久慈　直昭	慶應義塾大学医学部産婦人科講師
小池　弘子	西垣ARTクリニック看護師長　不妊症看護認定看護師
小松　雅博	聖路加国際病院女性総合診療部　胚培養士
齊藤　英和	国立成育医療センター　周産期診療部　不妊診療科長
佐藤　孝道	聖路加国際病院女性総合診療部長生殖医療センター長
塩田　恭子	聖路加国際病院女性総合診療部生殖医療センター医幹
清水　清美	国際医療福祉大学小田原保健医療学部講師
瀬戸屋　希	聖路加看護大学准教授
仙波由加里	桜美林大学総合研究所客員研究員
浜崎　京子	医療法人三秀会中央クリニック看護師長
浜谷　敏生	慶應義塾大学　医学部産婦人科助教
平原　史樹	横浜市立大学医学部付属病院産婦人科部長・遺伝子診療部長
平山　史朗	東京HARTクリニック臨床心理士
福井トシ子	杏林大学医学部附属病院看護部長
福田貴美子	蔵本ウィメンズクリニック看護師長不妊症看護認定看護師
福田　紀子	慶應義塾大学　大学院健康マネジメント研究科博士課程大学院生
藤井　知行	東京大学医学部附属病院女性科・産科副科長
藤島由美子	医療法人越田クリニック看護師長　不妊症看護認定看護師
古谷　正敬	慶應義塾大学医学部産婦人科助教
保坂　　隆	東海大学医学部精神科学教授
堀内　成子	聖路加看護大学教授
丸山　由美	横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター
光延　京子	東海大学伊勢原校舎学生相談室臨床心理士
宮坂　道夫	新潟大学　医学部保健学科准教授
森　　恵美	千葉大学　看護学部教授
森　　和子	文京学院大学人間学部准教授
森田　汐生	NPO法人アサーティブジャパン代表理事
八巻　甲一	日本精神技術研究所臨床心理士

表11　不妊症看護コース実習施設

施　　設　　名（順不同）	
医療法人愛生会扇町レディースクリニック	国家公務員共済組合浜の町病院
医療法人越田クリニック	済生会松阪総合病院
岡山二人クリニック	特別特定医療法人生長会　府中のぞみクリニック
香川県立中央病院	トヨタ記念病院
関西医科大学附属牧方病院	西垣ARTクリニック
蔵本ウィメンズクリニック	日本医科大学付属病院
国立大学法人東北大学東北大学病院	兵庫医科大学病院

２）がん化学療法看護コース

がん化学療法看護コースの教育目的

１）がん化学療法を受けながら生活している患者・家族に対して、個別的かつ全人的な専門性の高い看護を実践する能力を育成する。

２）がん化学療法看護の優れた実践力を基盤として、他の看護職に対する相談、指導を担う能力を育成する。

３）がん化学療法看護に関わる医療状況や健康課題を把握し、それらに伴って必要となる臨床実践能力を向上する姿勢や自律的に取り組む力を育成する。

表12　専門基礎科目

科　目　名	講　義　内　容	講　師
1．がん看護学総論 （1単位）	がん看護の発展と課題 がん看護の領域と専門性①	小松　浩子
	がん看護における主要概念①	小松　浩子
	がん看護の領域と専門性②	中村めぐみ
	がん看護における主要概念②	中村めぐみ
	がん患者・家族の情報ニーズと患者・家族教育（1）	玉橋　容子
	がん患者・家族の情報ニーズと患者・家族教育（2）	玉橋　容子
2．症状マネジメント論 （1単位）	症状マネジメントの枠組み	梅田　　恵
	症状のメカニズムとアセスメント（1）	梅田　　恵
	症状のメカニズムとアセスメント（2）	高橋美賀子
	症状マネジメントの方略と評価（1）	高橋美賀子
	症状マネジメントの方略と評価（2）	塩川　　満
	症状マネジメントの方略と評価（3）	塩川　　満
3．腫瘍学概論 (1単位)	がんの疫学 細胞の分裂・増殖、細胞死のメカニズム がんの発生・浸潤・転移（腫瘍免疫を含む）	垣添　忠生
	がんの予防と検診	垣添　忠生
	がんの診断過程と診断方法（2）	中村　清吾
	がん集学的治療（1）	中村　清吾
	がん集学的治療（2）	林　　章敏
4．がん化学療法概論 （2単位）	メディカルオンコロジーの領域と専門性 がん化学療法の基礎知識 がん化学療法とEBM	渡辺　　亨
	がん化学療法の開発から標準治療の確立まで がん化学療法による治療効果の評価	渡辺　　亨
	主な疾患のがん化学療法/標準治療と最新の動向①：乳腺	中村　清吾
	主な疾患のがん化学療法/標準治療と最新の動向②：婦人科	岩瀬　春子
	主な疾患のがん化学療法/標準治療と最新の動向③：頭頸部 原発不明	五月　女隆
	主な疾患のがん化学療法/標準治療と最新の動向④：消化器（膵）	陳　　勁松
	主な疾患のがん化学療法/標準治療と最新の動向⑤:消化器(大腸)	松阪　　諭
	主な疾患のがん化学療法/標準治療と最新の動向⑥：血液（1）	坂尻さくら
	主な疾患のがん化学療法/標準治療と最新の動向⑦：血液（2）	坂尻さくら
	主な疾患のがん化学療法/標準治療と最新の動向⑧：分子標的 薬剤（1）	徳留なほみ
	主な疾患のがん化学療法/標準治療と最新の動向⑨：分子標的 薬剤（2）	徳留なほみ
5．臨床薬理の知識と 活用方法(1単位)	臨床薬理の基礎知識	加藤　裕久
	薬物動態と薬効/薬物相互作用	加藤　裕久
	薬剤情報の活用方法（1）	信濃　裕美
	薬剤情報の活用方法（2）	信濃　裕美
6．臨床試験と治験コー ディネーター(1単位)	試験の意義とその過程（1）	畠　　清彦
	臨床試験の意義とその過程（2）	横山　雅大
	臨床試験実施計画書の読み方 臨床試験デザインとデータ解析の基本用語	篠崎　英司

	臨床試験の意義とその過程（３）	末永　光邦
	臨床試験における倫理的課題 臨床試験におけるインフォームドコンセントと患者の意思決定	薄井　晶子
	治験コーディネーターの役割と実際	薄井　晶子
７．がんの医療サービスと社会的支援（１単位）	１）がんのチーム医療	梅田　　恵
	２）がん患者と家族が活用できる社会資源	山田　雅子
	３）がんの医療政策	垣添　忠生
	３）がんの医療政策	高井今日子

表13　専門科目

科　目　名	講　義　内　容	講　師
１．がん化学療法患者・家族のアセスメント（１単位）	がん患者と家族の置かれている状況（１）	川地香奈子
	がん患者と家族の置かれている状況（２）	川地香奈子
	がん患者と家族の置かれている状況（３）	矢ヶ崎　香
	がん化学療法と身体的アセスメント（肝臓機能、免疫など）	矢ヶ崎　香
	がん化学療法と心理的アセスメント(関連理論を使用して) がん化学療法と家族・社会的アセスメント	矢ヶ崎　香
	事例検討	細川　恵子
２．主要ながん化学療法薬レジメンとその看護（２単位）	主要ながん化学療法レジメンとその看護①	長谷川久巳
	主要ながん化学療法レジメンとその看護②	長谷川久巳
	主要ながん化学療法レジメンとその看護③	金井　久子
	がん化学療法の施行前、施行中、施行後の看護のポイント①	細川　恵子
	主要ながん化学療法レジメンとその看護④：大腸がん	川地香奈子
	がん化学療法プロトコールに関する看護スタッフ指導（大腸がん）	川地香奈子
	主要ながん化学療法レジメンとその看護⑤：血液	近藤　美紀
	がん化学療法プロトコールに関する看護スタッフ指導①	近藤　美紀
	がん化学療法の施行前、施行中、施行後の看護のポイント②	細川　恵子
	がん化学療法プロトコールに関する看護スタッフ指導②：乳がん	金井　久子
	がん化学療法プロトコールに関する看護スタッフ指導③：まとめ	矢ヶ崎　香
３．がん化学療法薬の投与管理とリスクマネジメント（２単位）	血管アクセス用具（VADs）の種類と特徴、適応、取り扱い上の注意点	細川　恵子
	経静脈的投与の管理（１）血管のアセスメントと穿刺手技	金井　久子
	血管のアセスメントと穿刺手技	細川　恵子
	血管のアセスメントと穿刺手技	細川　恵子
	血管のアセスメントと穿刺手技	細川　恵子
	主要ながん化学療法薬/レジメンの経静脈投与の実際	細川　恵子
	経静脈的投与・その他の経路からの投与の管理	細川　恵子
	がん化学療法薬の安全な取り扱いの実際	細川　恵子
	がん化学療法薬の安全な取り扱いの実際	矢ヶ崎　香
	がん化学療法薬のリスク分類と健康への影響	信濃　裕美
	がん化学療法薬のリスク分類と健康への影響	信濃　裕美
	がん化学療法薬の与薬における事故防止	寺井美峰子
	血管外漏出時のアセスメントと処置の実際 がん化学療法薬の安全な取り扱い・経静脈投与に関する看護スタッフ指導	矢ヶ崎　香

４．がん化学療法に伴う身体の変化と症状緩和技術（２単位）	がん化学療法薬によってひきおこされる主な副作用症状の機序、アセスメント①	矢ヶ崎　香
	がん化学療法薬によってひきおこされる主な副作用症状の機序、アセスメント②	矢ヶ崎　香
	フィジカルアセスメント	林　ゑり子
	栄養のアセスメントと栄養管理	林　ゑり子
	がん化学療法を受ける患者の体験とその理解	矢ヶ崎　香
	症状マネジメントの実際	本田　晶子
	症状マネジメントの実際	本田　晶子
	症状マネジメントの実際	矢ヶ崎　香
	症状マネジメントの実際	矢ヶ崎　香
	マネジメントのために必要な知識と技術①	林　ゑり子
	マネジメントのために必要な知識と技術②	矢ヶ崎　香
	マネジメントのために必要な知識と技術③	矢ヶ崎　香
	マネジメントの評価方法（QOLなど）	矢ヶ崎　香
	事例検討（GW）症状マネジメントの実際など	矢ヶ崎　香
	事例検討（発表）症状マネジメントの実際など	矢ヶ崎　香
５．がん化学療法患者へのセルフケア支援（１単位）	セルフケア理論にそった患者アセスメント①	外崎　明子
	セルフケア理論にそった患者アセスメント②	外崎　明子
	入院、外来、在宅などの療養の場の特性を踏まえたセルフケア支援計画の立案①	中村めぐみ
	入院、外来、在宅など療養の場におけるセルフケア指導の方法と実際①	中村めぐみ
	入院、外来、在宅などの療養の場の特性を踏まえたセルフケア支援計画の立案②	矢ヶ崎　香
	がん化学療法をうける患者・家族への教育（服薬指導、教材開発を含む）	矢ヶ崎　香
６．がん化学療法に伴う患者・家族の意思決定を支える看護援助（１単位）	患者・家族の意思決定プロセス	有森　直子
	インフォームドコンセントにおける看護師の役割 意思決定に関する要因のアセスメント	小松　浩子
	意思確認のコミュニケーション	小松　浩子
	治療情報（がんの最新治療など）の提供における看護師の役割	中村めぐみ
	がんの代替・補完医療における看護師の役割	中村めぐみ
	がん看護における倫理的問題	矢ヶ崎　香
７．外来/在宅がん化学療法と看護援助（1単位）	外来/在宅におけるがん化学療法看護の現状と課題（治療環境等、ソーシャルサポートを含む）	矢ヶ崎　香
	外来/在宅におけるがん化学療法を受ける患者の相談とトリアージ（オンコロジックエマージェンシー）	矢ヶ崎　香
	外来/在宅化学療法をうける患者・家族の心理的支援の方法	矢ヶ崎　香
	外来/在宅がん化学療法をうける情報提供の方法	矢ヶ崎　香
	外来/在宅がん化学療法における看護師の役割と他部門との協力	矢ヶ崎　香
	治療環境の整備と支援	矢ヶ崎　香
	継続看護の体制について（入院から外来/在宅治療への移行）	矢ヶ崎　香
演習（２単位）		小松　浩子 矢ヶ崎　香 細川　恵子
臨地実習Ⅰ（１単位）		小松　浩子 矢ヶ崎　香 細川　恵子
臨地実習Ⅱ（３単位）		小松　浩子 矢ヶ崎　香 細川　恵子

表14　がん化学療法看護コース講師　　◎コース責任者　○専任教員

氏　名	所　属　・　役　職
◎小松　浩子	聖路加看護大学教授
○矢ヶ崎　香	聖路加看護大学看護実践開発研究センター助教
○細川　恵子	聖路加看護大学看護実践開発研究センター助教
垣添　忠生	国立がんセンター名誉総長、聖路加看護大学特任教授
有森　直子	聖路加看護大学准教授
外崎　明子	聖路加看護大学准教授
中村めぐみ	聖路加国際病院がん看護専門看護師
高橋美賀子	聖路加国際病院がん看護専門看護師
玉橋　容子	聖路加国際病院ナースマネージャー
金井　久子	聖路加国際病院アシスタントナースマネージャー
高井今日子	聖路加国際病院ナースマネージャー
中村　清吾	聖路加国際病院乳腺外科部長
塩川　　満	聖路加国際病院薬剤部チーフ
林　　章敏	聖路加国際病院緩和ケア科医長
寺井美峰子	聖路加国際病院セーフティマネージャー
信濃　裕美	聖路加国際病院薬剤部
畠　　清彦	財団法人癌研究会有明病院化学療法科部長
末永　光邦	財団法人癌研究会有明病院化学療法科医員
岩瀬　春子	財団法人癌研究会有明病院婦人科医員
陳　　勁松	財団法人癌研究会有明病院化学療法科医員
五月女　隆	財団法人癌研究会有明病院化学療法科医員
横山　雅大	財団法人癌研究会有明病院化学療法科医員
坂尻さくら	財団法人癌研究会有明病院化学療法科医員
松阪　　諭	財団法人癌研究会有明病院化学療法科医員
篠崎　英司	財団法人癌研究会有明病院化学療法科医員
徳留なほみ	財団法人癌研究会有明病院化学療法科医員
渡辺　　亨	浜松オンコロジーセンター院長
川地香奈子	財団法人癌研究会有明病院外来治療センターがん看護専門看護師
長谷川久巳	虎の門病院外来看護師長
林　ゑり子	済生会横浜市南部病院がん看護専門看護師
加藤　裕久	昭和大学薬学部医薬品情報学教室教授
近藤　美紀	国立がんセンター中央病院がん化学療法看護認定看護師
本田　晶子	国立がんセンター東病院がん看護専門看護師
薄井　晶子	財団法人癌研究会有明病院リサーチナース室
大坂千重子	財団法人癌研究会有明病院リサーチナース室

臨地実習

臨地実習Ⅰ（１単位）は研修生の自施設にて、臨地実習Ⅱ（３単位）は下記の14施設にて行った。

表15　実習施設

施　　設　　名（順不同）	
聖路加国際病院	埼玉県立がんセンター
国立がんセンター中央病院	神奈川県 県立がんセンター
国立がんセンター東病院	東海大学医学部付属病院
癌研究会有明病院	社会福祉法人三井記念病院
国立国際医療センター	慶應義塾大学病院
東京大学附属医科学研究所病院	昭和大学病院
北里大学病院	済生会横浜市南部病院

表16　がん化学療法看護教育内容

共通科目	90	専門基礎科目	120	専門科目	150	演習	60	実習	180
1. リーダーシップ	15	1. がん看護学総論	15	1. がん化学療法患者・家族のアセスメント	15	総合演習	60	実習Ⅰ	45
2. 文献検索･文献講読	15	2. 症状マネジメント論	15	2. 主要ながん化学療法薬レジメンとその看護	30			実習Ⅱ	135
3. 情報処理	15	3. 腫瘍学概論	15	3. がん化学療法薬の投与管理とリスクマネジメント	30				
4. 看護倫理	15	4. がん化学療法概論	30	4. がん化学療法に伴う身体の変化と症状緩和技術	30				
5. 教育・指導	15	5. 臨床薬理の知識と活用方法	15	5. がん化学療法患者へのセルフケア支援	15				
6. コンサルテーション	15	6. 臨床試験と治験コーディネーター	15	6. がん化学療法に伴う患者・家族の意思決定を支える看護援助	15				
（選択共通科目）		7. がんの医療サービスと社会的支援	15	7. 外来/在宅がん化学療法と看護援助	15				
看護管理	24								
						総時間数　600時間			

３）訪問看護コース

今後急速に展開されていくことが予測されている地域完結型医療提供システムを動かしていく力をもつ訪問看護認定看護師を養成することに焦点をおき、30名の研修生に対して以下の教育プログラムを提供した。本コースの実施にあたり、日本財団の医師・看護師などホスピス緩和ケア従事者の育成に関する助成金を頂戴し、研修生全員に対して授業料の30万円分を補助した。

表17　訪問看護教育内容

共通科目	90	専門基礎科目	90	専門科目	180	演習	60	実習	180
1. リーダーシップ	15	1. 訪問看護概論	15	1. ケースマネジメント	45	演習	60	実習	180
2. 文献検索・文献講読	15	2. ｹｰｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ概論	15	2. 訪問看護技術	135				
3. 情報処理	15	3. 訪問看護対象論	15						
4. 看護倫理	15	4. 家族支援の概論	15						
5. 教育・指導	15	5. 在宅ｹｱｼｽﾃﾑ	15						
6. コンサルテーション	15	6. 在宅医療概論	15						
（選択共通科目）									
看護管理	24								
								総時間数	600時間

表18　訪問看護コース専門科目の内容及び担当教員

科　　目	時間（単位）	内　　容	担当教員
訪問看護概論	15（1）	地域における看護活動の変遷 人口動態、疾病構造と保健医療福祉制度及び在宅ケアの動向 訪問看護制度 訪問看護事業の経営管理 諸外国の地域ケアの動向と看護活動 地域ケアにおける看護職の役割・機能・特性	山田　雅子
ケースマネジメント概論	15（1）	ケースマネジメントの概要、意義、必要な対象者及び実施場面 ニーズの判断（スクリーニング） 援助技術（インテーク、アセスメント、計画、実施、評価） ケアマネジメント、ケアコーディネート、チームアプローチ	竹森　志穂
訪問看護対象論	15（1）	医療ニーズの高い訪問看護対象者の概要 　医療ニーズの高い退院患者 　在宅医療を継続している対象者 　終末期にある対象者 セルフケア能力の向上と自立支援、社会参加	竹森　志穂
家族支援の概要	15（1）	家族看護概論 家族支援に関連する諸理論 家族支援の方法論	吉田　千文
在宅ケアシステム	15（1）	在宅ケアの概念 地域における保健・医療・福祉サービスの理解 24時間365日ケア体制の構築 訪問サービス、通所サービス、入所・入居サービスにおける看護職の役割 看護職の確保及びリーダーの育成 在宅ケアシステムの評価	竹森　志穂 沼田　美幸

在宅医療概要	15（1）	在宅医療の動向と関連する法律・制度 在宅医療関連機関との連携・医師等との連携 在宅医療処置管理 医療材料・薬剤等の供給システム、安全対策	竹森　志穂 沼田　美幸
ケースマネジメント	45（3）	訪問看護の展開過程 医療ニーズを有する退院患者のケースマネジメント 　退院連携 　呼吸管理を必要とする利用者 　栄養管理を必要とする利用者 　皮膚・排泄ケアを必要とする利用者 　精神科訪問看護 在宅医療を継続している対象者のケースマネジメント 　呼吸管理を必要とする利用者 　栄養管理を必要とする利用者 　皮膚・排泄ケアを必要とする利用者 　精神科訪問看護 終末期の病態にある対象者のケースマネジメント ＜特別講義＞ 認知症ケアを必要とする利用者 小児に対するケースマネジメントの特徴	竹森　志穂 沼田　美幸 卯野木　健 山藤　里美 川戸　由美 梅田　　恵 萱間　真美 沢田　　秋 宇都宮宏子 得居みのり 及川　郁子
訪問看護技術	135（9）	在宅医療の種類別看護技術及び管理 　終末期ケア：認知症ケアと看取り 　呼吸管理 　栄養管理 　終末期ケア 　スキンケア 　排泄ケア 　ＢＬＳ 　精神科訪問看護 　実施基準の整備、プロトコールの活用、医師との連携 　対象者及び家族への在宅医療技術支援 　医療器材・薬剤等の管理 　看護技術管理 　小児への訪問看護技術の特徴 　退院連携に必要な看護技術 　フィジカルアセスメント 　スキンケア セイフティマネジメント 　合併症予防 　感染防止 　事故防止対策 　緊急時の対応	竹森　志穂 沼田　美幸 得居みのり 卯野木　健 川戸　由美 梅田　　恵 三宮由美子 沢田　　秋 及川　郁子 宇都宮宏子 横山　美樹 岡安　裕之 衛藤　　光 安井はるみ
演習	60（2）	グループワーク	
臨地実習	180（4）		

表19　訪問看護コース講師　　**◎コース責任者　　○専任教員**

氏　　名	所　属　・　役　職
◎山田雅子	聖路加看護大学看護実践開発研究センターセンター長
吉田千文	聖路加看護大学看護実践開発研究センター准教授
○竹森志穂（主任）	聖路加看護大学看護実践開発研究センター非常勤講師
○沼田美幸	聖路加看護大学看護実践開発研究センター非常勤講師
井部俊子	聖路加看護大学学長
石田昌宏	日本看護連盟幹事長
宇都宮宏子	京都大学医学部附属病院地域ネットワーク医療部看護師長
卯野木健	聖路加看護大学助教
梅田恵	オフィス梅田がん看護専門看護師
江藤宏美	聖路加看護大学准教授
衛藤光	聖路加国際病院皮膚科部長
及川郁子	聖路加看護大学教授
大久保菜穂子	日本伝統医療科学大学院大学総合医療研究科准教授
岡安裕之	聖路加国際病院神経内科部長
片岡弥恵子	聖路加看護大学准教授
加藤恵子	聖路加国際病院ナースマネジャー
萱間真美	聖路加看護大学教授
川戸由美	愛全診療所居宅療養管理指導事業訪問管理栄養士チームリーダー
倉田慶子	社会福祉法人鶴風会東京小児療育病院・小児看護専門看護師
小西優子	セコム医療システム株式会社訪問看護ステーション部研修室室長
三宮由美子	聖路加国際病院訪問看護ステーションがん性疼痛看護認定看護師
得居みのり	姫路聖マリア病院地域連携室室長・老人看護専門看護師
平井元子	慶應義塾大学看護医療学部助教
安井はるみ	神奈川県看護協会医療安全対策課長
山藤里美	セコム医療システム株式会社訪問看護ステーション部看護部長
横山美樹	国際医療福祉大学小田原保健医療学部准教授

表20　訪問看護コース実習・演習施設

実　　習　　施　　設	
あすか山訪問看護ステーション	足立区包括支援センター千寿の郷
おもて参道訪問看護ステーション	大塚地域包括支援センター
北千住訪問看護ステーション	神奈川県立がんセンター
聖路加国際病院　訪問看護ステーション	京橋おとしより相談センター
セコム川口訪問看護ステーション	ケアサポートセンター千住
セコム吉祥寺訪問看護ステーション	月島おとしより相談センター
セコム駒込訪問看護ステーション	日本橋おとしより相談センター
セコム新宿訪問看護ステーション	柳原病院
セコム成城訪問看護ステーション	柳原リハビリテーション病院

セコム高輪訪問看護ステーション	
セコム千葉訪問看護ステーション	
セコム田園調布訪問看護ステーション	
セコム練馬訪問看護ステーション	
セコム船橋訪問看護ステーション	
白十字訪問看護ステーション	
訪問看護ステーションけやき	

４）研修生の募集

表21　2009年度研修生の募集状況

		不妊症看護	がん化学療法看護	訪問看護
募集定員		15	30	30
１次募集	受験者数	10	54	14
８月30日・９月１日	合格者数	9	30	12
２次募集	受験者数	6	－	9
１月７日・８日	合格者数	5	－	5
３次募集	受験者数	2	－	5
３月16日	合格者数	2	－	5
辞退者		0	0	2
入学予定者		16	30	20

－：募集せず